地に咲く花（4月の自然庭園では）　～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介をします。

地に咲く花（4月に自然庭園で観察できる動植物について）

春の花と言って思い浮かぶ花が桜だという方も多いかと思います。自然庭園でも3月初旬から早咲きの桜、オオカンザクラやリュウキュウカンヒザクラが咲き始め、下旬にはソメイヨシノやヤマザクラなどが開花し、4月の今は花の盛りと私たちの目を楽しませてくれます。しかし今回は目線を足元に向け、派手さは無くてもちょっぴり自己主張している、そんないつもと違う春の花を紹介したいと思います。

春咲く花の中で、いわゆる雑草と一括りされてしまうような地味な草の中にも、よく見ると綺麗で可愛い花を咲かせるものが多いです。唇の形で赤紫の色をして小さな細長い花を数本まとまった形で咲くホトケノザ、鮮やかな紫色の花弁に白い縦縞がかすかに彩りを添えているキランソウ、薄紫の花弁中央にある小さな橙色の斑紋が印象的なムラサキサギゴケ、白い五つの花弁が深く切れ込み、まるで花火のように広がるミドリハコベなどは、一輪一輪を拡大してみると大きな花にも負けない美しさと可憐さを漂わせています。その中でも瑠璃色をして紫のすじが入ったオオイヌノフグリの花は、小さな光り輝く星に見立てて星の瞳と呼ぶ地方もあるくらい気品のある姿をしています。

この春、梅、桜、ツツジやヤマブキなど春の代表的な花はもちろんですが、足元でそれらに負けじと咲く小さな花を楽しんでみてはいかがでしょうか。
自然庭園にはこれら春の草花がそこかしこに咲き皆様のご来園をお待ちしていますので是非お越しください。

オオカンザクラ

リュウキュウカンヒザクラ

キランソウ

ムラサキサギゴケ

ミドリハコベ

オオイヌノフグリ

見聞館トピックス「地に咲く花」は、平成29年4月5日17時15分頃から、CityFMさいたま(REDSWAVE87.3FM)の番組「イブニングパス」内の「さいたまトピックス」のコーナーで放送された内容に、一部加筆したものです。
次回の「みぬま見聞館」についての放送は、平成29年5月3日を予定しています。ぜひ聴いてみてください！

新しい命にふれる（6月の自然庭園では）　～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介をします。

新しい命にふれる(6月に自然庭園で観察できる動植物について)

6月というと梅雨の季節。しとしとと長雨が続くどんよりとした天気のせいで暗いイメージがありますが、自然庭園では新しい命が生まれ生き物たちが活発に活動する時期でもあります。今年も「ヤゴ救出作戦」と名付けて、市内の小中学校21校のプール清掃前に救出し庭園の池に放したヤゴが、無事成虫のトンボになって空を飛び始めたり、同じく救出したオタマジャクシが手足を出して小さなカエルになり池の片隅で空を見上げています。また先日は庭園の周回する木道上で丸々としたスズメの幼鳥が、まだ人を怖がることを知らず近づいても逃げようとせず、不思議な顔をしてこちらを見ていました。新しい命を実感する瞬間でした。

昨年に続き、職員の手で飼育されているオオムラサキという蝶も幼虫からさなぎになり、まもなく美しい青紫の翅を見せてくれることでしょう。5月23日には今年初のホタルが誕生し、その後も次々と生まれています。平日の昼間に限りますが暗室を作り展示していますので、淡い光を是非ご覧になって下さい。
なお、オオムラサキとホタルは「見聞館トピックス・号外」でその様子をお知らせしていますので、見学等の参考にご覧ください。

雨で外に出る機会が少ない季節ですが、新しい命に触れることができるのもこの季節ですので、庭園にお越しいただき今年生まれた命の姿や声に触れてみて下さい。ご来場をお待ちしています。

ギンヤンマのヤゴ

ギンヤンマ

コノシメトンボ

タコノアシにとまるコノシメトンボ

水からあがったばかりのアズマヒキガエル

自然庭園にいたニホンアマガエル

見聞館トピックス「新しい命にふれる」は、平成29年6月7日17時15分頃から、CityFMさいたま(REDSWAVE87.3FM)の番組「イブニングパス」内の「さいたまトピックス」のコーナーで放送された内容に、一部加筆したものです。
次回の「みぬま見聞館」についての放送は、平成29年7月5日を予定しています。ぜひ聴いてみてください！

ガマの穂（7月の自然庭園では）　～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介をします。

ガマの穂(7月に自然庭園で観察できる動植物について)

湿度が高く、ジメジメした日が続いています。7月は、梅雨後半の雨と梅雨明けの太陽の強い日差しが続く月です。

今月は、因幡の白ウサギの話にも出てくるガマを紹介します。
ガマは、河川敷や湿地にごく普通に生える大型の多年草です。国内には、在来のガマ、コガマ、ヒメガマの3種類があり、それぞれ穂の形に特徴があります。自然庭園内には、コガマとヒメガマの2種類のガマが生育しています。
ガマは、ソーセージの形をした穂でよく知られています。ソーセージ状の穂は雌小穂と呼ばれる雌花の集まりで、その上につく細いものが雄小穂と呼ばれる雄花の集まりです。コガマとヒメガマの違いは、雌小穂と雄小穂がくっついているのがコガマ、間に長い柄があり離れているのがヒメガマです。
ガマは、6月から7月に開花して穂の状態で過ごし、12月から1月に破裂し綿毛を飛び散らします。果実の綿毛は、昔はふとんの詰めものとして使われ、漢字の蒲（ガマ）と団体の団（だん）でふとん（蒲団）の語源ともなっています。
ガマは、古い時代からよく知られた存在です。「古事記」にある、大国主命（おおくにぬしのみこと）がサメに毛をむしられた白兎（しろうさぎ）の赤い肌を治すのに、ガマの穂の花粉を敷き散らしてその上に寝転べば癒えると教えたという「因幡の白兎」の伝説は有名です。
池や湿地に生える植物の観察にぜひ一度、自然庭園の散策にお越しください。

なお、昨年に続き、職員の手で育てられたオオムラサキが成虫となり、美しい青紫の翅が見られます。7月3日にはエノキの葉に産みつけられた卵が確認できました。ヘイケボタルも少しずつ成虫となり、平日の昼間に限りますが、暗室を作り展示していますので、淡い光を是非ご覧になって下さい。
なお、オオムラサキとホタルは「見聞館トピックス・号外」でその様子をお知らせしていますので、ご来場の参考にご覧ください。

コガマの穂

コガマの綿毛

ヒメガマの穂

ヒメガマの綿毛

見聞館トピックス「ガマの穂」は、平成29年7月5日17時15分頃から、CityFMさいたま(REDSWAVE87.3FM)の番組「イブニングパス」内の「さいたまトピックス」のコーナーで放送された内容に、一部加筆したものです。
次回の「みぬま見聞館」についての放送は、平成29年8月2日を予定しています。ぜひ聴いてみてください！

自然庭園のマザーツリー（8月の自然庭園では）　～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介をします。

自然庭園のマザーツリー(8月に自然庭園で観察できる動植物について)

暑さ真っ盛りの8月ですが、今日はクヌギの木を紹介したいと思います。「ああ、あのドングリの木ね、夏と関係があるの？」と思われる方もいらっしゃるかと思いますが、実は自然庭園の片隅にある一本のクヌギが今大忙しなのです。夏の昆虫の代表格であるカブトムシやクワガタをはじめ多くの昆虫に樹液を与え命をつなぐ、まさにマザーツリーと呼べるような木だからです。

幼虫の時にはそれぞれエノキの葉やサルトリイバラを食草としていたゴマダラチョウやルリタテハ、ササを食草とするサトキマダラヒカゲという蝶の仲間や、腐葉土を食べていたカブトムシが成虫になると同じ餌に群がることになり、そこに鋭い針を持つ黒と黄色の縞模様が鮮やかなスズメバチが加わって、朝のクヌギは樹液確保の陣取り合戦で壮絶なバトルが繰り広げられています。カブトムシが大きな角で纏わりつくカナブンを投げ飛ばしたり、蝶を追い払ったクワガタがスズメバチの前で小さくなったり、お互いつまはじきにされたカナブン同士が鼻を突き合わせて押し合ったり、朝食のテーブルがまるで四角いリングになったかのようです。樹液の出始めた数年前は小さかった穴も、今は毎年繰り広げられるそのバトルのせいか、樹肌はえぐられ樹皮は捲り上がり悲惨な状態となっていますが、それでもクヌギはまるで授乳するかのように樹液を出し続け、騒がしい昆虫たちを横目に泰然自若と立っています。

クヌギは最近まで私たち人間の生活に欠かせない身近な樹木でもありました。今ではすっかりドングリの木の印象になっていますが、伐採して原木を炭にしたり、シイタケの榾木（ほだぎ）にしたり、小枝は焚き付け用の薪にしたりと、昔の暮らしには欠かせない利用価値の高い木でした。人にも利用され昆虫にも必要とされ、まさにクヌギは夏の林の主人公なのです。

ご紹介したマザーツリーともいえるこのクヌギの木は、残念ながら自然庭園のサンクチュアリという保護育成区域にあるため見学者の立ち入りはできませんが、見学コースにはいつかは第二第三のマザーツリーになるクヌギの木も多くあります。
多くの昆虫の命をつないで大忙しのクヌギを励ましに、暑い盛りですが是非一度お越しになって下さい。

カブトムシ

ゴマダラチョウ

コムラサキとサトキマダラヒカゲ

サトキマダラヒカゲ

ルリタテハ

マザーツリーのクヌギの樹液に集まる昆虫たち(1)

マザーツリーのクヌギの樹液に集まる昆虫たち(2)

お知らせ

夏休み企画～夏休みの自由課題を応援します～
リサイクルに挑戦その2「保冷剤から消臭ポットを作ろう！」
8月22日火曜日、午後2時から1時間程度(小・中学生とその保護者10組)
保冷剤を原料にカラフルな消臭ポットを作ります！
詳しくはこのリンク、もしくは関連ページからご覧ください。
※なお、リサイクルに挑戦その1「牛乳パックからハガキを作ろう！」は終了しました。

自然観察・環境学習会
当センターでは自然庭園内の動植物を観察、撮影したり、環境について毎回様々な話題を取り上げ学習する、自然観察・環境学習会を開催しております。
次の「夏休み自然観察・環境学習会」は、平成29年8月20日日曜日に開催します！
今回は昆虫標本について学び、実際に標本作りを行います。また、自然庭園に生息する生きものを観察・撮影し、「みんなのいきもの調査」を実施、最後に撮影した生きものの写真発表会を行う予定です。
詳しくは市報8月号かこのリンク、関連ページをご覧ください。(定員に達したため受付を終了しています)

いきもの、みっけた！写真展（開催と作品募集のお知らせ）
さいたま市内でみつけた身近な生き物の写真を募集します！
応募していただいた作品は、大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）で開催する「いきもの、みっけた！写真展」で展示しますので、ぜひご応募ください。なお、詳しくはこのリンク、もしくは関連ページをご覧ください。
写真展開催期間
募集開始から平成29年11月30日（木曜日）まで（作品の募集は平成29年8月31日（木曜日）まで ）

みぬま見聞館だよりの発行
「みぬま見聞館だより第44号」を平成29年6月1日に発行しました。
このリンク、もしくは関連ページからご覧になれます。

さいたま市大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）の開館は、9時から17時（毎月第4土曜日及び年末年始を除く）です。

湿地に咲くタコノアシ？！（9月の自然庭園では）　～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介をします。

湿地に咲くタコノアシ？！(9月に自然庭園で観察できる動植物について)

まだまだ残暑が厳しい9月ですが、夕方には、若干でも涼しさを感じられるようになりました。庭園内においてもアキアカネが群れをなして飛びまわり、コオロギの鳴き声もよく聞こえてくるような時期となりました。

さて、今月は、この時期に咲く特徴のある植物を紹介します。
その植物は、小さな花をたくさんつけた様子が、タコの足の吸盤が並んでいるように見えることが名前の由来とされている『タコノアシ』です。
タコノアシは、河川下流域や沼などの湿地に生える草丈は30～80ｃｍで、根は、水底の土壌に固着しますが、茎や葉の一部は水面から出て生育する植物で抽水性植物といわれています。茎の先から花序の枝が数本にタコ足状に別れ、その枝に五角形の小さな花をたくさんつけ、タコの足の吸盤のようになります。特に秋になると果実が赤く色付き、まさにゆでダコの足のように見えます。
タコノアシの分布の拡大は、アシやヨシのように横に伸びていく地下茎を作るものではないため、小さな種子が風や川の流れにより運ばれ、繁殖するとみられます。日本では、本州から九州の湿地で見られますが、湿地そのものが減少しているため、自生できる場所も少なくなっています。環境省のレッドデータブックで準絶滅危惧（ＮＴ）、すなわち、『現時点では絶滅する可能性は低いが、生息条件の変化によっては絶滅危惧種に移行する可能性がある』に指定されています。
自然庭園を訪れた際は、同じように暑い夏から続いて、黄色の花を咲かせているセイヨウミヤコグサや、朝方に鮮やかな青い花を咲かせるツユクサも合わせて観察してください。 皆さまのお越しをお持ちしています。

湿地に咲くタコノアシ

これから徐々に赤くなります

ゆでダコの足のようです

ゆでダコのようなタコノアシ

春先に芽吹き始めるタコノアシの様子

タコノアシ、成長中です

紅葉と黄葉（10月の自然庭園では）　～みぬま見聞館トピックス～

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介をします。

紅葉と黄葉（10月に自然庭園で観察できる動植物について）

10月になると気温も下がり秋の気配もだいぶ深まって来ますが、自然庭園も夏の間活発に動きまわっていた昆虫たちが次第に姿を消し、その代わり紅葉し始めた木々が庭園内を明るく彩るようになって来ました。「こうよう」は紅い葉と書いて「紅葉」と黄色い葉と書いて「黄葉」と二通りの漢字表記があるように、赤い葉になる木と黄色い葉になる木があります。
庭園内で赤く色づく木は、イロハモミジやヌルデ、ハウチワカエデ、マユミ、ハナミズキやガマズミ、メグスリノキなど、黄色く色づく木はイチョウ、エノキやアカメガシワなどがあり、少しづつ時期をずらしながら色合いを濃くして行きます。また紅葉するのは木だけではなく、「草紅葉（くさもみじ）」と言うように草も色づきます。赤くなるのはキツネノマゴ、イヌタデ、ヘクソカズラなど、黄色くなるのはクズやガガイモなどがあり、派手さはないものの落ち着いた色で私たちの目を楽しませてくれます。紅葉のメカニズムは気温の低下や日照時間が短くなることに因る化学反応で、木本体の水分の蒸発を防ぐため葉の基部にコルク質の層を作って水分や養分の流れを止めてしまい、その結果葉緑体のクロロフィルが分解され緑の色素が消え、その代わり赤い葉にはアントシアン、黄色い葉にはカロテノイドが目立つことによる、そうです。

まあ、あまり難しい話はさておき、色枯れた樹木の中を赤や黄色の色合いで一際美しく私たちを楽しませてくれる野草や樹木を、ぜひ眺めにいらしてください！

イロハモミジの紅葉

イチョウの黄葉

エノキの黄葉

メグスリノキは目薬の木？！（11月の自然庭園では）　～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介をします。

メグスリノキは目薬の木？！(11月に自然庭園で観察できる動植物について)

秋も深まりつつあります。11月になると、植物の花を観察するより樹木の紅葉を観察する機会のほうが多くなってきます。今月は、メグスリノキという珍しい名前の落葉高木を紹介します。

メグスリノキは、カエデ属の落葉樹で日本にだけ自生する植物です。そして秋には紅葉し、低地でも紅葉するため、街路樹として植えられることもあります。その紅葉は、カエデの仲間では、最も美しい部類に属するといわれています。自然庭園内においても、東門近くの区域に生育しており、綺麗な紅葉が鑑賞できます。
メグスリノキの3枚1組の葉は裏側に毛が多く、とてもカエデの仲間に見えませんが、カエデ類特有のプロペラ状の種子ができることが知られています。
そして、メグスリノキという名前は、樹皮や葉を煎じた汁で目を洗うと眼病に効くといわれ目の薬に用いられてきたことに由来しており、別名、長者の木、千里眼の木とも呼ばれています。実際にメグスリノキの樹皮には、ロドデンドロールやタンニンなどの有効成分が含まれていることが知られています。
庭園には、他にもイロハモミジ、コナラ、ヌルデ、エノキ、ハウチワカエデなど紅葉する樹木が多くあります。

冬の足音がもう間近な季節となってきました。オカヨシガモやコガモなどの冬鳥も渡ってきます。渡り鳥や紅葉の鑑賞に、ぜひ自然庭園を訪れてください。

メグスリノキの紅葉前の様子です

最近(10月30日)のメグスリノキ、
少しずつ色付きはじめました！

陽に照らされた部分がきれいです！

紅葉した部分のアップです

11月6日(月曜日)の様子
右上の写真と比べると紅葉が進んでいるのがわかります

11月6日(月曜日)の紅葉の様子をズームアップ！
キレイな紅色です

 11月17日（金曜日）の様子 コナラの黄葉とメグスリノキの紅葉	 11月17日（金曜日）撮影 あざやかに紅葉しています！

ひっつきむしのヒミツ（12月の自然庭園では） ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介をします。

ひっつきむしのヒミツ（12月に自然庭園で観察できる動植物について）

12月に入ると寒さも一段と増して外に出るのが億劫になりますが、今日はその寒さにも負けず元気に飛び回る子供たちのお友達を紹介します。「ひっつきむし」です。小さなお子さんがいるご家庭では、遊んできた子供さんの衣服に小さなタネがくっついて来て、それを取るのに苦労したことや、親御さんご本人が幼いころの記憶として遊びまわったあと、気が付くと服に見知らぬタネがまるで虫のようにくっついていたのを覚えていることでしょう。

ご存じだとは思いますが、ひっつきむしは動物や人の衣服につく植物のタネを総称したものです。代表的なものではイノコヅチやアメリカセンダングサなどがあります。このタネをよく見るとタネからトゲが出ているのですが、そのトゲには抜けないように逆向きの小さなとげがみっしりついていて、刺さると簡単に抜けなくなるような仕組みがあります。また同じひっつきむしでもイノコズチやハエドクソウの実の先端にはハンガーのフックのような形をしたカギを持ち確実に引っかかるように出来ていますし、チヂミザサという草は粘着性の液を出してくっつく仕組みになっています。同じひっつきむしと呼ばれる植物のタネでも実に様々な付き方があり、その巧みな仕掛けには感心させられます。

晩秋から初冬にかけた今、管理のため樹木の間の草むらに入った後の職員の足元や袖周りには、いつの間にかひっつきむしがたくさん付いて来ることが多くなりました。少し迷惑な庭園の仲間ですが、しばらくお付き合いしなければならないようです。

自然庭園では冬の装いが進み、冬鳥のジョウビタキの姿を見る事ができるようになりました。また庭園に沿った芝川にはコガモ、ヒドリガモなどのカモの仲間やオオバンがのんびりと川面を漂っています。暖かな日を選んで是非自然の小さな営みを見にいらして下さい。皆さまのお越しをお待ちしています！

オオオナモミのタネ（ひっつきむし）の拡大写真
顕微鏡でみるとトゲの先がフックのようになっているのがわかります

キンミズヒキのタネ（ひっつきむし）
これもとげの先がフック状になっています

アメリカセンダングサのタネ（ひっつきむし）
2つのトゲにたくさんの「かえし」が付いています

コセンダングサのタネ（ひっつきむし）
これもトゲにたくさんの「かえし」が付いています

ヌスビトハギのタネ（ひっつき虫）
表面にたくさんの繊毛がありくっつくとはなれません

ハエドクソウのタネ（ひっつきむし）
トゲの先がフックのようになっています

正月の縁起木「マンリョウ」（1月の自然庭園では） ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介をします。

正月の縁起木「マンリョウ」（1月に自然庭園で観察できる動植物について）

1年でもっとも寒い時期となってきました。自然庭園は、花も少なくなり、鳥がたくさんの落ち葉をかきわけエサを探す音や、鳴き声が響く静かな季節となります。
今月は、正月用の縁起木として親しまれている「マンリョウ」を紹介します。

マンリョウは、その名前のとおり、たくさんのお金を想像させ、縁起物とされています。他にも「センリョウ」、カラタチバナの別名で「ヒャクリョウ」、ヤブコウジの別名で「ジュウリョウ」などお金にからむ名前の植物があり、いずれも赤い実をつけます。
マンリョウは、サクラソウ科の常緑小低木であり、日蔭でも実をつける耐陰性と丈夫さを持っていますが、成長速度は遅く、背丈も大人の腰付近ぐらいまでです。7月ごろ小さな白い花を咲かせ、赤い実となり、11月から2月ごろまで鑑賞できます。赤い実のほか、白い実のシロミノマンリョウ、黄色い実のキミノマンリョウも知られています。

自然庭園においては、見聞館建物に近い西側の区域にマンリョウが3本生育しており、すでに赤い実をつけています。冬場に見る光沢のある赤い果実は、緑色の葉や冬の澄んだ空とのコントラストがすばらしく、小低木でありながら、庭園散策中においてもすぐに見つけられます。また、すぐ近くには、センリョウも生育しており観察できます。

庭園では、このほか、葉痕、冬芽など表情豊かな樹木の姿も見られます。にぎやかな鳥のさえずりを聞きながら、十分な防寒の備えをしてお楽しみください。

マンリョウの花（7月ごろ）

自然庭園ではいま、
マンリョウの実が見られます

センリョウ

センリョウのアップです

木のカタチ「樹形鑑賞」（2月の自然庭園では）　～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介をします。

木のカタチ「樹形鑑賞」(2月に自然庭園で観察できる動植物について)

2月は冬の真っただ中。一年で一番寒い時期ですね。2月4日の立春を過ぎれば暦の上では春となりますが、先日降った大雪もこの寒さでなかなか解けず、自然庭園の草花はまだ雪の下で静かに春を待っています。
今日は一見何もないような冬の庭園で、意外と楽しめるこの時期ならではの自然観察をご紹介したいと思います。

それは木の形を見て楽しむ樹形鑑賞です。木を観察するに当たって花や葉、実を楽しむことが多いと思いますが、樹木の本来持っている形そのものを見て楽しむことはあまりないと思います。すっかり葉を落とした木々の鑑賞は、そういう意味では今が絶好の季節でもあるのです。
この樹形を見るうえで基本となるのが幹と、幹から伸びる枝の形です。根本から太い幹を伸ばす木と、幹が不明瞭で枝と区別がつかない木、根本では幹が明瞭なのに途中から細くなり枝と見分けがつかなくなる木など、木の形は様々です。庭園内で見られる樹形として、幹がはっきりしている木はケヤキ、エノキやハンノキです。根本からしっかりした太い幹を立ち上げ、枝分かれを繰り返すごとに細い枝を広げていきます。最後には幹はいつの間にか消えてしまいますが、これらの木は木らしい木といえるかもしれません。ミズキという木は本来はっきりとした幹を持つ木なのですが、個体によっては枝分かれが激しく幹と枝の分別ができない樹形もあるようです。自然庭園のミズキはしっかりとした幹を持ってすくすくと育っています。またサンシュユやヌルデなどは地面から枝分かれした数本の同じような太さの幹が見られますが、木の形を形成する幹らしい幹は見当たりません。
このように葉を落としたいわば裸の樹木は、個性豊かな本来の木の特徴を見せてくれます。また幹から伸びた枝が枝分かれするたびに次第に細く重なり合って、幾何学模様の複雑な形を作る姿も美しく、まるで絵画の一片を見ているような楽しさがあります。

もうじき春。木々の芽吹きももうすぐです。この時期でしか見られない冬の自然観察の楽しみの一つ樹形鑑賞をご紹介しましたが、庭園ではジョウビタキなどの冬鳥や自然庭園の東側を流れる芝川ではカモなどの水鳥が毎日のように姿を現してくれていますので、野鳥観察にも良い時期です
まだ寒い日が続きますが、是非みぬま見聞館と自然庭園にお越し下さい。職員一同お待ちしております！

ケヤキ

エノキ

ミズキ

コナラ

コブシ

自然庭園の樹形の様子

バラ科のユキヤナギ（3月の自然庭園では） ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介をします。

バラ科のユキヤナギ(3月に自然庭園で観察できる動植物について)

寒い時期が過ぎ、陽ざしの温かさを少しずつ感じられるようになりました。自然庭園においても、多くの植物、生き物が観察できる季節となってきました。今月は、早春に庭園でみられる花、ユキヤナギを紹介したいと思います。

ユキヤナギは、日本や中国に分布する落葉低木で、株元から、たくさんの枝を出して茂ります。その枝は、弧（アール・円弧）を描きながら、葉が出るのとほぼ同時期に、雪が降り積もったように7～8ミリのたくさんの白い花を咲かせるのが特徴です。このように枝が弓状に花を咲かせる様子がヤナギに似ていることが、ユキヤナギの名前の由来となっています。しかし、分類上はヤナギの仲間ではなく、バラ科に属する植物です。
ユキヤナギは、自生地では岩の裂け目から生えるほど強健で繁殖力もあり、公共の場所でもよく見かけられ、この時期に咲く花では、丈夫で育てやすいといわれています。
自然庭園では、見聞館建物正面の池の近くに人の背丈ほどのユキヤナギが生育し、花を咲かせています。

その他、ユキヤナギと同様、若葉といっしょに花を咲かせるボケ、ユスラウメ、葉のない枝に花だけを咲かせるサンシュユ、アンズ、オオカンザクラなどの春を感じさせる花を観賞できます。

たくさんの花の咲き誇るこれからの季節、みなさんで自然庭園にお越しください。

ユキヤナギ
3月初旬の状況です

ユキヤナギ
もうすぐこの様にユキヤナギも満開に

ユキヤナギ
花の拡大写真です

ピンクのユキヤナギも
見られます！

ボケの花

ユスラウメの花

オレンジ色の小さな花がたくさん	
 サンシュユの花 葉が出る前に黄色い花がたくさん咲きます	 アンズの花
 早咲きのオオカンザクラ しばらくの間、鑑賞できます	 オオカンザクラの花 春を感じます